

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動テーマ

『物流改善で観光地住民満足度向上』

活動団体の活動地域：沖縄県八重山郡（島嶼地域）

活動団体名：八重山離島配送協議会

中間支援主体名：八重山離島の物流課題解決プロジェクト

中間支援主体としての獲得目標と達成状況

■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

地域内外の多様な関係者の声を丁寧に汲み取り、見えにくい課題や対立の構造を可視化、合意形成へと導く「調整力」と「翻訳力」を高めていきたい。特に、活動団体が自ら課題を発見・整理・表現し、他者と共有しながら実行に移すプロセスに伴走し、必要な資源や人材、情報との接続をサポートすることを得意としたいです。

また、若者や住民と共に現場に入り、AIやICTを活用した対話・発信支援、資料作成、ロジの設計など、実務的なスキル支援にも力を入れ、地域全体の「行動する力」を育む中間支援を目指します。地道で誠実な支援を通じて、「相談すれば何とかなる」と思ってもらえるような、信頼される中間支援主体になることが目標です。

■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

・ 八重山商工、観光コース出前授業の実施

観光や生活を支える物流課題を構造的に捉える視点を共有し、問いを立て整理するプロセスに伴走できた。

・ 高校生と物流現地視察による構造理解の促進

現場の声を収集し、対立や負担構造を可視化。翻訳・調整機能を実践できた。

・ 竹富町政策推進課の協議参加の実現

行政が同じ場に参加し、対話の土台を形成。関係主体の接続が前進した。

中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎／○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎／○／▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する	◎	もっともっとわかりやすくしたい	◎	整理は済んで、地域は課題を理解している
	意味づける	◎	なぜ をもっと納得で浸透させたい	○	日常の当たり前 に8石くらい投じた
	癒しとなる	◎	島より癒せるものがあるのか？	▲	これは私達の課題
	見通しをつける	◎	まだ見通せていない気がする	○	現地作業もしており、各社の本音も聞いている
プロセス支援	話を聞く	◎	対話がすべて。 各島に泊まるくらい	○	離島住民とLINEや対面で会話する機会は多い
	場を開く	◎	石垣島内ではできるが、全離島でやりたい	◎	意見交換会を開催できた
	喝を入れる	◎	あくまで理想	▲	これをする、嫌われる段階。 もっと先
	現在地を確認する	◎	わかってるつもりなので、まだまだ	○	どれをどういう順番で というのは見えている
資源連結	新しい人を入れる	◎	若者はぜったいにひつようだ！！	◎	高校生20人と次年度も活動できるのは最高！
	事例を紹介する	◎	他県の連携とかもよさそうだなー	▲	他の離島事例は多いはずだが、これは次期に！
	引き出す	◎	各離島にあるものはあるはず	○	スーパー店長との関係は濃く仲良くなった！
	拡散する	◎	郡域に知られる拡散力が必要	○	新聞に3回掲載されたので、そこそこ。
問題解決提示	文字や図に落とす	◎	誰にもわかるようなものとして必要	▲	うまくできていないね
	問いを立てる	◎	変革には、当事者目線で常に。	◎	「30年来の当然」にはこれがすべて。
	会議を進行する	◎	不得意だがやるしかない	○	やってるつもり なのかもしれない
	落としどころを探る	◎	地域の人が気づき、決めてもらう	○	離島住民側の目線は常に持っている
その他	※必要に応じて追加				

今後の中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献 【R7年度当初目標】

「調整・翻訳・発信」の中間支援機能を活かし、事業終了後も八重山全域（石垣市・竹富町・与那国町）を対象に、地域循環共生圏づくりを継続的に支えていきます。

具体的には、離島の物流や観光に関わる多様な主体（住民・事業者・行政・高校生など）と共に、声を可視化し合意形成を図る場づくりや、活動支援・情報発信を担うハブ的存在として機能します。

また、八重山発の実践モデルとして、他地域とのネットワークを広げ、地域の課題を共有し、循環型の仕組みを広域で共創する連携にも貢献していきます。離島という制約を可能性に変え、地域全体の持続可能性を支える中間支援の拠点を目指します。

■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェント機能での分類
構造を描ける中間支援へ 個別対応で終わらせず、物流・売店・観光・教育を接続した「地域の未来構造」を描ける存在になる	・離島売店低価格化・文化継承・若者参画を統合したビジョン図を作成し、竹富町・学校・事業者と共有・更新する。	地域のビジョンを描く
若者と地域を循環させる中間支援へ 地域課題を学び、可視化し、発信し、仕事へと接続できる循環のハブとなる。	出前授業から発展させ、販売実験・発信支援まで伴走し、若者の実践機会を地域事業者と結びつける	仲間を探す

■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

今後は他地域の離島や中山間地域、物流事業者、教育機関などと積極的に連携し、類似課題の知見や実践事例を共有したい。外部の視点や技術を取り入れながら、地域内だけでは気づきにくい構造課題を磨き直し、若者の学びや事業創出につなげていく。内向きに閉じず、横につながることによって、持続可能な地域づくりを共に進めていきたい。